

X I - 3 ウイルス性疾患

4) 流行性耳下腺炎

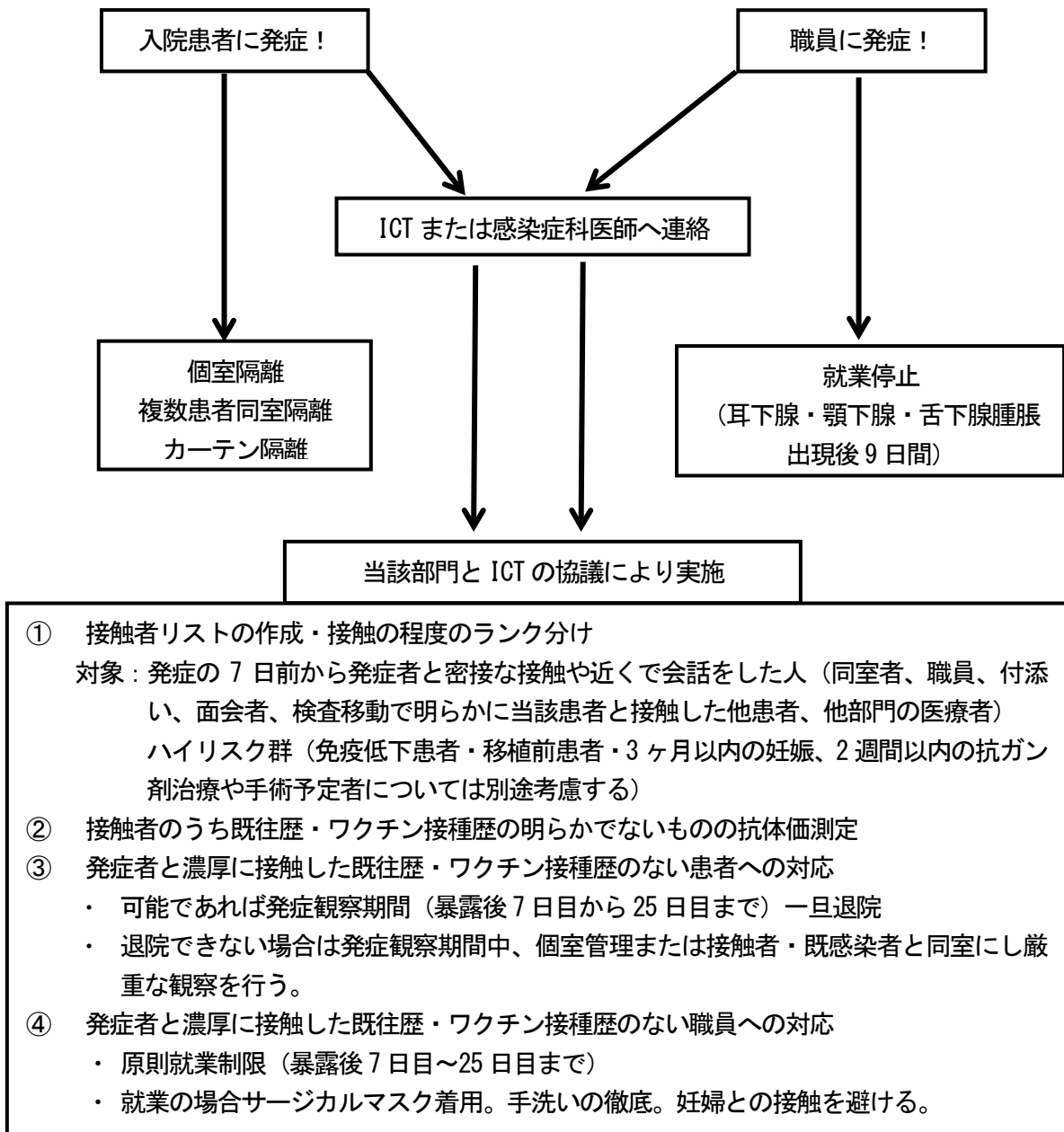
(1) 概要

原因	ムンプスウイルス
感染経路	唾液の飛沫感染（1m以内）と接触感染
潜伏期	10～21日
症状・臨床経過	
診断	前駆症状（食欲低下、筋肉痛、倦怠感、頭痛など） 発熱、耳下腺腫脹（片側性、両側性いずれも） 血清抗ムンプスウイルス IgM 抗体
治療	対症療法
感染期間	耳下腺腫脹出現7日前から出現の9日後（多くは3日前～4日後）まで
学校保健法	耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫脹が発現した後5日間は出席停止

(2) 院内感染対策

- ① 飛沫感染予防策を行う。
 - ・ 個室管理による隔離を行う。
 - ・ 患者の1m以内の作業時や入室時サージカルマスクを着用する。
- ② 患者の室外への移動は厳しく制限する。やむを得ず病室より出る場合はサージカルマスクを着用する。
- ③ 備品の専用化は必要ない。
- ④ 流行性耳下腺炎患者同士は同じ病室で良い。
- ⑤ 免疫を有する職員が優先的に対応する。

(3) 入院患者・職員に発症した場合



(4) 接触者の発症予防

流行性耳下腺炎に関しては、既往歴がなく抗体陰性の接触者へのワクチン接種や免疫グロブリン投与による発症予防効果は確認されていない